

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

[ビズスタ名古屋]

2017 06

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、関西、京都・滋賀、
仙台、福岡、名古屋、広島にて60万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.052-219-7011 FAX.052-219-7041
www.dac-group.co.jp/

企画・制作/株式会社デイリー・インフォメーション中部
〒460-0003 名古屋市中区錦1-20-12 伏見ビル6F
© 2017 DAILY INFORMATION CHUBU CO.,LTD

あの頃のハワイが、
いま鮮明によみがえってくる。

Remember Hawaii



JAPAN AIRLINES

My Favorite Life Style

JALとハワイのHistory

- 1951 日本航空設立
- 1954 初の国際線(東京=ウェーキ=ホノルル=サンフランシスコ)営業開始
- 1957 東京=ホノルル間の初の無着陸飛行に成功
- 1959 東京=ホノルル=ロサンゼルス線開設
- 1960 初のジェット機「FUJI号」就航(就航路線は東京=ホノルル=サンフランシスコ) 
- 1964 日本人の海外渡航自由化自由に海外旅行へ行ける時代に
- 1965 初の海外バックツアー「ジャルバック」発売開始 
- 1967 世界一周路線開設を機に客室乗務員の制服を改定(森英恵デザイン) 
- 1970 ジャンボ機導入(就航路線は東京=ホノルル)これに合わせて客室乗務員の制服を改定。ミニスカートのワンピースが話題を集めた(森英恵デザイン) 
- 1972 日本人の海外出国者数が100万人を突破
- 1977 客室乗務員の制服を改定(森英恵デザイン) 
- 1978 大阪=東京=ホノルル線開設
- 1981 福岡=東京=ホノルル線開設
- 1986 名古屋=ホノルル線開設
- 1987 日本航空が完全民営化



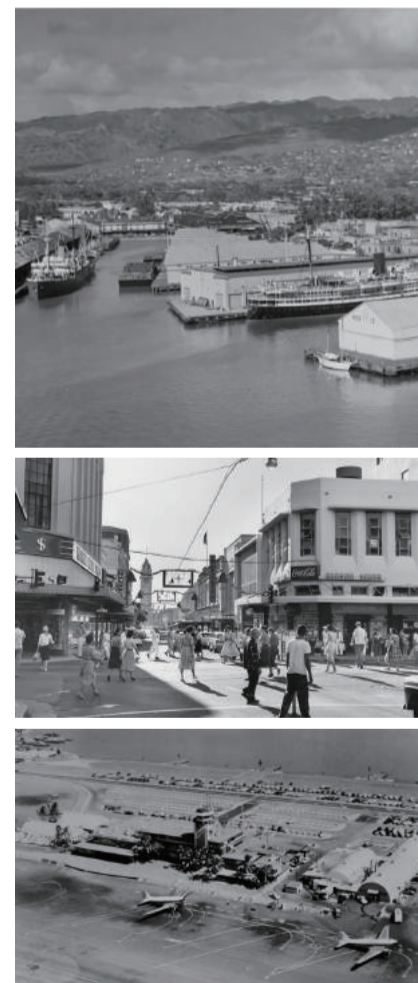
写真提供/ハワイ州観光局



写真提供/ハワイ州観光局



写真提供/ハワイ州観光局



しかしに長時間の移動は体力的にも負担がかかる。もし健康面に不安を抱えていたら尚更だろ。飛行機に乗ること自体が新鮮で、初めて見る機内食にも目を輝かせていたあの頃は遠い昔のこと。だが、よく考えてみてほしい。あの頃と同じ感動を味わいたいかと聞いて、何もあの頃と同じような旅をする必要はないのである。今ならあの頃よりも少しだけ経済的なゆとりや時間的なゆとりがあるはず。思い切ってもっと贅沢にゆつたりと旅を楽しんでみてみよう。

憧れの楽園だったハワイ。初めて訪れたときの、あの感動をもう一度。

日本人が海外へ自由に渡航できるようになったのは今から50年前、オリンピック東京大会の開催が間近に迫った1964年4月のことである。人気の旅行先として常に上位に君臨しているハワイは、当時から夢の海外旅行先として真っ先に思い描かれる憧れの楽園であった。1965年にはジャルバックが日本で初となる海外パッケージツアーを発売するが、当時の海外ツアー商品はごく限られた人しか購入できなかった超高額商品。例えば、当時JTBが主催した7泊9日のハワイ旅行費用は36万4000円。大卒初任給が約2万4000円、サラリーマンの平均年収が約44万7000円の時代であるため、現在の物価に置き換えると400万円程かかる計算になる。自由に海外へ行くようになったとはいえ、一般の人々にとって海外旅行もハワイも到底手の届かぬ高嶺の花。ジャルバックではツアー参加者にロコモークが入った赤いトラベルバッグを配布していたが、これは海外旅行に出掛けただけで二種のステータスホルンになっていたのだ。

しかし、1970年に日本航空から「ジャンボ」の愛称で知られるジャンボジェット機ボーイング747が登場すると状況は変化する。世界初の2階建て旅客機であり、世界初のワイドボディ機であったジャンボジェット機は従来の旅客機の3倍近い座席数を要し、大量輸送を実現したのだ。大量輸送時代が到来したことによって、それまで超高額だった海外旅行代金は大幅に引き下げられ、日本人にとって海外旅行は初めて現実的なものに。ハワイのパッケージツアー商品も15万22万円程度にまで価格が下がり、さらに1990年代前半にはサラリーマンの平均年収が100万円を超えるなど、一般の人にとってハワイ旅行は決して夢見るだけの高嶺の花ではなく、手を伸ばせば届く存在へと変わっていったのだ。実際に1972年には日本人の海外出国者が100万人を突破。日本からハワイへ旅行に訪れる人もこの頃から加速度的に増加しており、生まれて初めての海外旅行がハワイだぞという人も多いだろう。

また、ハワイにおいては1970年にホノルル国際空港の新サテライトターミナルがオープン。1971年にシエラトン、ワイキキが開業。1976年にはハイアットリージェンシー、ワイキキが開業するなど、砂糖やパイナップルの産産を抜いて観光が最大の産業へと移り変わっていった。1970年代にはすでにワイキキビーチの周辺に高層タワマンが点在しており、世界的なリゾート地としてカラカワ通り周辺は華やかなりやで、当時は街中にもどこか長閑な雰囲気が残っており、エヌラルドグリーンの海はもちろん、さとう

きび畑が広がる田舎の風景や、ハワイの大自然が訪れる人々を夢中にさせたのだ。あの頃ハワイで見た青い海と雄大な景色。そして若かりし日の姿を思い浮かべると当時の思い出とともに胸の高鳴りが蘇ってくるのではないだろうか。空港の到着ゲートからワイキキバスに揺られ、ミネタミナルまで運ばれていく間に味わった、何とも言い難い高揚感。ダイヤモンドヘッドの山頂からワイキキを奥底に、在りし日の感動が甦っているはずだ。

1982年にはハワイが日本人の新婚旅行先として躍進。そして、1986年より1991年のバブル期にかけては、それまで以上に多くの日本人がハワイを訪れたのだ。バブル世代にとってハワイといえは、シッピング、ティンクなどの思い出が色濃いのではないだろうか。昼はダイヤモンド景色を眺めながらゴルフを楽しむ高級ブランドのブティックを回り、夜にはドレスアップして出かけた。ハワイの思い出は、それだけだろうか。そのような感動は、さあ、あの頃と比べて今のハワイはどのようになっているのか。ワイキキビーチの周りには高層タワマンが立ち並び、街並みはより洗練された。また、当時から圧倒的なホテルとリゾートが軒を連ねる世界最大級のショッピングセンターに発展している。エヌラルドグリーンの海は、今ではおよそ340のショップやレストランが軒を連ねる世界最大級のショッピングセンターに発展している。エヌラルドグリーンの海は、今ではおよそ340のショップやレストランが軒を連ねる世界最大級のショッピングセンターに発展している。エヌラルドグリーンの海は、今ではおよそ340のショップやレストランが軒を連ねる世界最大級のショッピングセンターに発展している。

My Favorite Life Style

名古屋(中部) - ハワイ(ホノルル)線に 新ビジネスクラス誕生



JAL
BUSINESS
CLASS

JAL SKY SUITE III



2017年2月、JALの名古屋(中部) - ハワイ(ホノルル)線に新しいビジネスクラス「JAL SKY SUITE III」が登場した。まず目を惹くのは先進的なデザインだろう。実際に同シートを導入した777-200ER型機は2016年にグッドデザイン賞を受賞している。また、このビジネスクラスは1-2-1の座席配列で全席通路アクセスを可能に。窓際でも中央席でも心地よいプライベート空間を実現したのだ。シートは快適性を追求した新しいフルフラット型。空間を有効活用することで足元にも十分なゆとりを持たせており、空の上でも手足を伸ばしてゆつくり寛ぐことができる。特に中央席においてはヘッドポジション時に隣り合うシートの足を上下にクロスさせることで、奥までスクエアな広い空間を生み出すことに成功している。機内のLED照明には睡眠や目覚めなどシーンに合わせた演出があり、枕が変わると眠れないという人もきつと心地良い眠りに誘われるだろう。

さらなる快適性を求めて開発された「JAL SKY SUITE III」。設計の工夫により、ゆとりある空間をつくりだしている。中央席は2人での利用にオススメだが、窓側席はよりプライベート感の高い1人用の個室空間として利用することができる。各シートに設置されている17インチの大型モニターは角度調節が可能。さまざまなシートポジションからも快適に使用することができる。映画や音楽など、気分に合わせて機内エンターテインメントも楽しめるはずだ。



各シートの前面に設置された17インチの大型モニター



和と洋の垣根を越えた「山田チカラ」というジャンルの料理



搭乗前には国際線サクララウンジで寛ぎのひとつときを

機内食は空の上のレストランと言われるほどクオリティが高く、夢見心地な気分での食事を楽しむことができる。この便で味わえるのは麻布十番の創作料理店「山田チカラ」のオーナーシェフ山田チカラが監修する和洋食メニュー。予約困難といわれる人気シェフの味が生かされた味は、何となく贅沢な話だ。ビジネスクラスであれば長時間のフライトも決して苦痛な時間ではなく、寛ぎの時間になるだろう。

最近では旅行のスタイルも多様化しており、航空券やホテルを自分で手配する人が増えている。宿泊先や日程を好きなようにアレンジできるため旅慣れている人にはそれほど不安がなければバックパックやJTBから、JALのビジネスクラスで行くハワイツアーが販売されている。上質なビジネスクラスで移動時間を楽しみながら、ゆつたりとハワイの地に降り立ってみたい。かたはら、そこにはエメラルドグリーンと突き抜けるような青い空が待っているはずだ。

JALPAK

ビジネスクラス/
プレミアムエコミーで行くハワイ

人気のポイント

空港 ⇄ ホテル移動 全て専用車で直行!

お問い合わせは、お電話又はJALパック取扱い旅行会社へ。

ジャルパックリン・リン・ダイヤル

電話: 050-3164-1111 (受付時間/9:00~18:00)



LOOK JTB

ビジネスクラス/
プレミアムエコミーで行くハワイ

ルックJTBのOLIOLI!ハワイなら便利で快適!!

お問い合わせは、お電話又はルックJTB取扱店へ。

JTB旅の予約センター

電話: 0570-070-489 (受付時間/9:00~20:30)

JTB店舗検索

検索



JAPAN AIRLINES

JAL航空券の予約・購入・問い合わせ

TEL 0570-025-031 (有料) 年中無休 (8:00~19:00)

www.jal.co.jp

この広告でのお申し込みは受け付けておりません。